



神奈川3区国政対策委員長 前県会議員

木佐木 ただまさ

日本共産党 見解を紹介します

いのちとくらし  
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

# 保育士の配置基準の見直しを

2月25日、神奈川県議会本会議で日本共産党県議団を代表して上野たつや県議が、保育所に関わる問題を取り上げました。紹介します。

## 戦後ほとんど変わらない「配置基準」

保育士の仕事は、子どもの命を預かり、成長発達を保障するという社会的な責任を負っていますが、現状では、低すぎる賃金水準、過酷な労働環境などにより「働きたくても働けない」とやめていく保育士が後を絶ちません。保育所によっては保育士不足のために開所を遅らせたり、定員をカットしたりするケースもあります。

保育士の過酷な労働環境の原因の一つとなっているのが、国が定めている保育士の配置基準です。「0歳児は3人に1人、1～2歳児は6人に1人、3歳児は20人に1人、4～5歳児は30人に1人」と保育士配置の最低基準が定められていますが、この基準は、戦後ほとんど変わっていません。

県内にある、全労連・全国一般労働組合が行った働き方アンケートでは、1歳児担当の保育士からは「震災、災害が起きた時、1人で子ども6人をどうやって守ったら良いのか。」など、切実な訴えが出されています。

## 他県を見習い、県独自の取り組みを

埼玉県や愛知県など11県では、保育の質の確保のために、1歳児の子ども3人に対して保育士1人の配置にするなど、保育士配置のための上乗せ補助を行っています。また、県内の18市町村でも、独自に「職員配置の上乗せ補助」を行っています。神

### 保育士の過酷な労働環境



出典：全国保育団体連絡会

奈川県では独自の上乗せ補助は行っていません。

県では、国に対して「1歳児、4・5歳児の職員配置の改善」を求めています。保育の質を担保するためにも、保育士の皆さんが働き続けられる環境、とりわけ配置基準の見直しは急務です。

## 配置基準の見直しを国に求めよ

党県議団は黒岩知事に対し、保育士配置の最低基準の抜本的改善を国に求めること、また、国の最低基準改善が実現するまで、県独自で、保育士配置のための上乗せ補助を行うべきと要望しました。

知事は、「特定の目的のために基準を上回る保育士を配置する場合に人件費を補助している」「そのため、配置基準の改善については現時点で国に求めることや、県独自の上乗せ補助を実施することは考えていない」と答弁しました。

現場の苦勞に耳を傾けない知事の答弁に心底がっかりしますが、この課題にいつまでも目を背け続けられるはずがありません。誰もが安心して子育てできる神奈川を、日本を実現するために国の配置基準などを見直すために力を尽くしたいと思います。